

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	論理国語	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	73 単位時間
年間指導 目標	(知)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、活用することができる。				
	(思)論理的・創造的に考える力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。				
	(学)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに言葉を通して他者や社会に関わろうとする主体的な態度を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:松島理絵				
使用教科書	高等学校 標準論理国語(第一学習社)				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点） (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	理解編Ⅱ クマを変えて しまう人間	6	○筆者の問題提起を捉える。具体例を整理し、要旨をまとめる。 ◆人間の行動と自然環境との関係について、筆者の主張とその根拠を捉え、論理的に考える力を身に付ける。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 (主) 人間と野生動物の関係のあり方について考えを深め、人間ができることについて積極的に話し合おうとしている。
	5	理解編Ⅱ コミュニケーションの文化	8	○異文化によるコミュニケーションの違いを読み取る。 ◆文化の違いとコミュニケーションの関係について理解し、筆者の主張とその根拠を読み取り、自分の考えを深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 文章構成や事例をもとに「コミュニケーションの文化」についての筆者の主張を把握する。 (主) 筆者の主張を検証し、そう主張する理由を粘り強く説明しようとしている。
	6	理解編Ⅱ SNSと意見の分極化	9	○具体例を整理しながら、原因と結果の関係を整理する。 ◆NSの特性によって意見が分極化する仕組みを理解し、筆者の主張とその根拠を捉えながら、情報との関わり方について考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 (主) 筆者の分析を基に積極的に考えを深め、問題点を話し合おうとしている。
	7	理解編Ⅱ 新しい 博物学を	4	○筆者の主張と根拠を整理しながら、対比構造を捉える。 ◆自然の捉え方の変化について理解し、筆者の主張とその根拠を読み取りながら、人間と自然の関係について考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 各段落の役割や関係を把握し、筆者の提案する「新しい博物学」の意義と可能性を考察する。 (主) 積極的に筆者の考えに対する意見をまとめ、文章にまとめようとしている。
二 学 期	9	理解編Ⅱ 僕らの時代のメディア・ リテラシー	7	○筆者の主張を捉えながら、批判的に読む視点を理解する。 ◆現代のメディアの特性を理解し、情報を主体的かつ批判的に読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 (主) 個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
	10 前半	理解編Ⅱ 僕らの時代のメディア・ リテラシー	4	○筆者の主張を捉えながら、批判的に読む視点を理解する。 ◆現代のメディアの特性を理解し、情報を主体的かつ批判的に読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 (主) 個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	理解編Ⅱ 僕らの時代のメディア・ リテラシー	4	○筆者の主張を捉えながら、批判的に読む視点を理解する。 ◆現代のメディアの特性を理解し、情報を主体的かつ批判的に読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 (主) 個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
	11	理解編Ⅱ 経験の教え について	8	○具体例を整理しながら、筆者のいう「経験」の意味を読み取る。 ◆経験を通して学ぶことの意義について理解し、筆者の主張を読み取りながら自分の生き方や考え方を深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考えを深める。 (主) 段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。
	12	理解編Ⅱ 経験の教え について	5	○具体例を整理しながら、筆者のいう「経験」の意味を読み取る。 ◆経験を通して学ぶことの意義について理解し、筆者の主張を読み取りながら自分の生き方や考え方を深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考えを深める。 (主) 段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。
三 学 期	1	理解編Ⅱ 科学技術は 暴走しているのか	5	○筆者の立場を捉え、科学技術の発展と人間生活の変化を読み取る。 ◆科学技術の発展と人間との関係について、筆者の主張とその根拠を読み取り、自分の考えを深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 (主) 個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
	2	理解編Ⅱ 支え合うことの意味	8	○筆者の主張とその根拠を捉え、支え合いによって生まれるものを考える。 ◆人と人が支え合うことの意味を理解し、筆者の主張を読み取りながら、よりよい人間関係について考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 抽象的な表現の意味を把握しながら、「支え合うことの意味」について考えを深める。 (主) 筆者の主張を捉え、その内容について積極的に考え、学習課題に沿って説明しようとしている。
	3	理解編Ⅱ 支え合うことの意味	5	○筆者の主張とその根拠を捉え、支え合いによって生まれるものを考える。 ◆人と人が支え合うことの意味を理解し、筆者の主張を読み取りながら、よりよい人間関係について考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 抽象的な表現の意味を把握しながら、「支え合うことの意味」について考えを深める。 (主) 筆者の主張を捉え、その内容について積極的に考え、学習課題に沿って説明しようとしている。
そ の 他	通 年	音読 漢字の読み書き 語句の確認 読解		<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容を理解しながら、適切な速さや調子で正しく音読する。</li> <li>日常生活や社会生活に必要な漢字を理解し、正しく読み書きできる。</li> <li>語句の意味や使い方を理解し、語彙を豊かにする。</li> </ul>	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> <li>主題を導き出すキーワードを見つける。・筆者の主張や問題提起に線を引き、分かりやすくする。</li> <li>文語表現を丁寧に解説する。・他の実用的な文章も用意し、多様な文章に多く触れられるようにする。</li> <li>難しい言葉は、辞書を引いて確認するようにする。・筆者の作品を紹介し、内容理解の助けとする。</li> <li>繰り返し音読して、理解の定着を図る。・ワークシートを活用し、読解を深める。</li> </ul>	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	国語表現	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、活用することができる。 (思)言葉で的確かつ効果的に表現する能力を育成し、他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。 (学)共感したり想像したりする力を伸ばし、自ら表現することを通して、言語文化の担い手として、社会生活の充実を図る態度を育てる。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:長岡優花				
使用教科書	国語表現(大修館書店)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	伝える、伝え合う	6	○他己紹介をしよう ○マイニュース記事を書こう ◆自分の考えを的確に表現する。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)同意や共感が得られるよう表現を工夫している。 (主)基礎的な対話活動に前向きに取り組もうとしている。
	5	メディアを駆使する	6	○通信文を書き分ける○手紙のいろいろ ○電話を使いこなす ○電子メール ◆コミュニケーションに必要な基礎知識を理解し、自らの表現に活かす。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)実務的な手紙や電子メールを書いている。 (主)通信文の使い分けや、手紙の書き方に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
	6	自己PRと面接	10	○自分を見つめて ○効果的な自己PR ○面接 ◆自己を知ることによって様々な表現の土台を作り、進路や社会と自分の関係を考える。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 (主)効果的な自己PRをすることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
	7	表現を楽しむ	4	○言葉で遊ぶ ○ポスター作り ◆多種多様な言葉の世界を体験しながら、音の響きや意味の広がり豊かさを学ぶ。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)題材を決め、工夫して伝えたいことを明確にしている。 (主)言葉遊びに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。
二学期	9	言葉と出会う	6	○言葉と表記 ○わかりやすい文を書く ○文のつながり方 ◆基本的な表記の決まりや正しい使い方を理解する。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)文末表現の統一など、表現の仕方を工夫している。 (主)文を整えて書く学習に対して積極的に取り組もうとしている。
	10前半	小論文・レポート入門	3	○小論文とは何か ○反論を想定する ◆小論文の特徴について理解し、テーマに沿って書く力を身に付ける。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)文章の構成や展開を工夫している。 (主)小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	小論文・レポート入門	4	○小論文とは何か ○反論を想定する ◆小論文の特徴について理解し、テーマに沿って書く力を身に付ける。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)反論などを想定し文章の構成や展開を工夫している。 (主)説得力を高めた小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
	11	小論文・レポート入門	6	○文章を読み取って書く ○課題文型小論文 ◆文章の「型」を習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)反論などを想定し文章の構成や展開を工夫している。 (主)説得力を高めた小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
	12	会話・議論・発表	7	○グループディスカッション ○スピーチをしよう ◆声を発する具体的な場面を想定した学習を通して、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)話し合い方について工夫したり、批評したりしている。 (主)話し合いをよりよく進めることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
二 学 期	1	表現を楽しむ	5	○書道で表現をしよう ○インタビュー ○エッセイを書こう ○演説 ◆自分の感じたことを、相手や目的に応じて表現する。 ◆言葉や表現方法の違いを理解する。	(知)各表現方法の特徴を理解し、適切に活用している。 (思)目的や相手に応じて表現を工夫し、分かりやすく伝えている。 (主)試行錯誤しながらよりよい伝え方を追求している。
	2	読書の広場	7	○ビブリオバトルをしよう ◆本の魅力を、自分の言葉で分かりやすく伝え、聞き手と共有する力を養う。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)効果的に説明し、表現の仕方を工夫している。 (主)話の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。
	3	表現を楽しむ	6	○模擬裁判をしよう ◆根拠を理解しながら聞き取る。議論を通して考えを広げる。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)効果的に説明し、表現の仕方を工夫している。 (主)話の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に合わせながら、オンライン授業や課題提出ができるように、Teamsを活用する。</li> <li>論理的文章を書くための基礎・基本を学習してから実践に入る。</li> <li>生徒が想定しやすいように具体的な場面を設定し、体験的に学習できるようにする。</li> <li>話し合い活動を多く取り入れて、自己理解と他者理解を指導する。</li> <li>生徒の様子をよく観察し、その場ですぐに褒めて、自己肯定感の向上につなげる。</li> </ul>	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	政治・経済	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)自己を取り巻く社会の成り立ちを知り、環境と自己、他者との関係について真摯に考察する力を身に付ける。 (思)過去、現在、未来の自己を多角的に分析し、社会人として自立していく考え方を身に付ける。 (学)よりよい社会の実現のために、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、国民主権を担う公民として、国家及び社会の形成に積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:木下徹				
使用教科書	最新政治・経済(実教出版)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	・立憲主義	6	○民主政治の基本原則 ◆民主政治の基本原則を理解し、自由と権利を守る仕組みに気付くとともに、公正な社会の在り方を考える。	(知)政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解している。 (思)民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 (主)国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察したり、構想を練ったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
	5	・基本的人権の保障と日本国憲法	6	○日本国憲法の基本原則 ◆日本国憲法の基本原則を理解し、個人の尊重と民主社会の在り方に気付くとともに、主権者としての自覚をもつ。	
	6	・三権分立	8	○政治機構と三権分立 ◆政治の仕組みと三権分立の意義を理解し、権力の集中を防ぐ仕組みに気付くとともに、公正な政治の在り方を考える。	
	7	・地方自治	5	○地方自治 ◆地方自治の仕組みと意義を理解し、住民の意思が反映される政治に気付くとともに、よりよい地域社会の在り方を考える。	
二学期	9	・経済活動と市場	7	○経済社会の変容 ◆経済社会の変化の様子を理解し、生活との関わりに気付くとともに、これからの経済の在り方を考える。	(知)経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解している。 (思)経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	10前半	・物価と景気動向	3		

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	・物価と景気動向	4		(主)国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持って、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的に考察、構想し、意欲的に取り組んだりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
	11	・財政の仕組みと租税の意義	7	○財政の仕組みを知る。 ◆財政の仕組みを理解し、税金の役割と使われ方に気付くとともに、持続可能な社会の在り方を考える。	
	12	・金融の仕組みと働き	7	○金融の仕組み ◆金融の仕組みを理解し、お金の流れや役割に気付くとともに、経済の安定の在り方を考える。	
二 学 期	1	・現代社会の諸課題	3	○現代社会に関する様々な問題を知る。 ◆現代社会の様々な問題を理解し、自分との関わりに気付くとともに、よりよい社会の在り方を考える。	(知)各課題に関連する知識を整理、理解し各課題の解決に向けた考察・構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 (思)社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。 (主)よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。
	2	・国際政治の動向と課題	8	○国際政治の動向を知る。 ◆国際政治の動向を理解し、国際社会の課題に気付くとともに、平和と協力の在り方を考える。	
	3	・SDGsの実現に向けて	6	○雇用と労働をめぐる問題、地球環境問題 ◆雇用と労働、地球環境問題について理解し、社会や生活との関わりに気付くとともに、持続可能な社会の在り方を考える。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料集を用いて教科書の内容をわかりやすく示す。</li> <li>・主体的に考える活動を多く設定する。</li> </ul>		

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	数学B	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	<p>(知)数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(思)離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>(学)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> <p>※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等</p>				
担当教職員	教員:城戸口直久、橋本良夫				
使用教科書	新編数学B(実教出版)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	数列    確率分布と統計的な推測	35	○数列とその和 ・数列 ・等差数列 ・等差数列の和 ・等比数列 ・等比数列の和 ◆数列の規則性を基に、一般項や和を式で表して求める。 ◆等差数列の規則性に着目し、一般項や和を求める。 ◆等比数列の規則性に着目し、一般項や和を式で表して求める。	(知)等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。数学的帰納法について理解することができる。 (思)事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 (主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追求しようとしている。
	5				
	6				
	7				
二 学 期	9			○二項分布と正規分布 ・二項分布 ・正規分布 ◆二項分布の確率分布を表し、平均・分散などを用いて分布の様子を考察する。 ◆正規分布の性質に着目し、平均や標準偏差を用いて分布の特徴を捉える。	(知)標本調査の考え方について理解を深めることができる。確率変数と確率分布について理解することができる。二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。 (思)確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 (主)学習内容に主体的、意欲的に取り組み、自らの思考プロセスやデータの処理過程を振り返って評価、改善している。
	10 前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	数列	35	いろいろな数列 ・数列の和と $\Sigma$ 記号 ・階差数列 ・数列の和と一般項 ◆階差数列に着目し、数列の規則性を捉える。 ◆ $\Sigma$ を用いて数列の和を表し、その値を求める。	(知) 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。漸化式について理解、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。数学的帰納法について理解することができる。 (思) 事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 (知) 標本調査の考え方について理解を深めることができる。確率変数と確率分布について理解することができる。二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。 (思) 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。
	11				
	12				
三 学 期	1	確率分布と統計的な推測	35	統計的な推測 ・母集団と標本 ・標本平均の分布 ・統計的な推測 ◆標本調査の考え方に基づき、母集団の特徴を推測する。	(知) 社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解することができる。日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知ることができる (思) 日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現することができる。数学化した問題の特徴を見だし、解決することができる。問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察することができる。解決過程を振り返り、そこで用いた方法を一般化して、他の事象に活用することができる。 (主) 数学のよさや歴史的背景に着目して自発的に課題を探究しようとする。
	2				
	3	数学と社会生活			
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> <li>・負の数の計算、分数・少数の計算など、生徒の実態に応じて年度初めに基礎的な計算の復習をする。</li> <li>・単元のはじめに、ポイントを整理して、既習内容の振り返りをする。</li> <li>・生徒個々の実態に応じて、時間配分を調整する。</li> </ul>	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	化学	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	143 単位時間
年間指導目標	(知)化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
	(思)目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につける。				
	(学)日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。				
	※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:熊谷賢二				
使用教科書	高等学校 化学(啓林館)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	第1部 物質の状態 第1章 固体の構造 第2章 物質の状態変化	13	固体の構造 物質の状態とその変化を、構成粒子の存在状態とエネルギーの関係 実験「減圧沸騰(100℃以下での水の沸騰)」	(知)それぞれの結晶の性質を理解している。 (思)分子量と沸点の関係を理解する。 (主)結晶や結晶格子に興味をもつ。粒子の熱運動に興味をもつ。
	5	第3章 気体の性質 第4章 溶液の性質	13	気体を示す性質について 実験「気体の圧力・温度と体積の関係」 溶液やコロイドが示す性質について 実験「物質の構造と溶解性」「コロイド溶液の性質」	(知)気体の体積や圧力、絶対温度について理解する。 (思)気体の各法則を使い、それぞれの値を求めることができる。 (主)気体の体積や圧力、絶対温度の関係性について興味をもつ。
	6	第2部 物質の変化と平衡 第1章 化学反応と熱・光エネルギー	14	化学反応におけるエネルギーの出入りと熱や光との関係 実験「水への溶解による溶解エンタルピー」 「シュウ酸エステル発光」	(知)反応エンタルピーの種類を理解する。 (思)ヘスの法則を利用し、与えられたエンタルピー変化を適切に用いることで、目的のエンタルピー変化を求めることができる。 (主)化学反応に関わるエンタルピー変化に興味をもつ。
	7	第2章 化学反応と電気エネルギー 第3章 反応速度	10	電池、電気分解のしくみ 実験「鉛蓄電池・ファラデーの法則」 化学変化の反応速度	(知)電池のしくみに基づいてそれぞれの電池で起こる反応式について理解する。活性化エネルギーについて理解する。 (思)電気分解の量的関係の計算ができる。 (主)電池の現象や反応速度に興味をもつ。
二学期	9	第4章 化学平衡	13	平衡定数を用いた平衡時の各物質の物質量や分圧の求め方 水溶液中で電離する物質についての平衡定数の考え方 実験「濃度変化と平衡移動」「弱酸の電離平衡と電離定	(知)化学平衡の平行定数について理解する。 (思)濃度、圧力、温度を変化させた際に平衡がどちらに移動するか、ルシャトリエの原理に基づいて判断できる。 (主)化学平衡における平衡移動について興味をもつ。
	10前半	第3部 無機物質 第1章 周期表と元素の分類 第2章 非金属元素	8	周期表と元素の性質との関係について 実験「カルシウムと水の反応」	(知)非金属元素の性質と関係を理解する。 (思)周期表に基づいて、各元素の分類や周期性を説明できる。 (主)元素の分類や周期表に興味をもつ。

期	月	単元(題材)名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点)
一 学 期	10 後 半	第3章 典型金属元素 第4章 遷移元素	8	典型金属元素や遷移元素の単体や化合物の性質や用途について 実験「銅(Ⅱ)イオンと銀イオンの性質」	(知) 典型金属元素、遷移元素の性質と関係を理解する。 (思) 典型金属元素、遷移元素の反応式を書くことができる。 (主) 典型金属元素、遷移元素の特徴に興味をもつ。
	11	第4部 有機化合物 第1章 有機化合物の特徴と分類 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 酸素を含む脂肪族化合物 第4章 芳香族化合物	13	有機化合物の特徴と分類 実験「砂糖の成分元素の検出」 鎖式炭化水素と脂環式炭化水素の構造と性質 実験「炭化水素の反応」実験「酢酸エチルの合成」	(知) 有機化合物の特徴について理解する。 (思) 有機化合物を、分子式や構造式、示性式で表すことができる。 (主) 有機化合物の特徴や分類について興味をもつ。
	12		15	芳香族炭化水素、芳香族化合物の性質について 実験「フェノール類の性質」「アニリンの性質」	(知) 芳香族化合物の特徴について理解する。 (思) 芳香族化合物の構造式や名称を答えることができる。 (主) 芳香族化合物の特徴や分類について興味をもつ。
三 学 期	1	第5部 高分子化合物 第1章 高分子化合物 第2章 天然高分子化合物	10	高分子化合物の分類と特徴について 天然高分子化合物とそれを構成している化合物の構造や性質について 実験「糖類の性質」「タンパク質の性質」	(知) 高分子化合物の定義や分類、構造について理解する。 (思) 高分子化合物を分類することができる。 (主) 高分子化合物の性質や構造について興味をもつ。
	2	第3章 合成高分子化合物	14	合成繊維やプラスチックの製法や構造、性質、用途について 実験「ナイロン66の合成」「発泡ポリスチレンの溶解と再生」	(知) 合成高分子化合物の分類について理解する。 (思) 合成繊維、熱可塑性樹脂の構造式を書くことができる。 (主) 合成繊維、熱可塑性樹脂の特徴について興味をも
	3	前後見返し・終章・巻末資料	12	化学が果たす役割	(知) 化学で学んだ内容と人間生活の結びつきを理解する。 (思) 身のまわりで用いられている化学で学んだ内容について説明することができる。 (主) 化学が社会においてなすべきことについて興味をも
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用し、科学的な事象についてのイメージをもたせる。</li> <li>教材や実験器具を生徒にとって扱いやすい物を準備する。</li> </ul>		

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	体育	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	106 単位時間
年間指導目標	(知)心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動について理解し、高度な知識や技能を深める。 (思)運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育む。 (学)健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:新田真、松木克美、細貝正輝				
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	「体づくり運動」	9	○体ほぐし運動 ◆様々な運動に親しみながら、全身をバランスよく動かし、体力の向上と運動習慣の形成を図る。	(知) 身体の各部位を意識して動かすことができる。 (思)リズムやタイミングを工夫しながら身体を動かそうとしている。 (主)友達と協力しながら運動に取り組もうとしている。
	5	「陸上」	9	○投てき ◆投げる動きに親しみ、適切な力加減や方向を意識して投てきする力を養う。	(知) ルールを理解して走競技へ参加することができる。 (思) 自己の課題を見つけ、解決へ向けて工夫することができる。 (主)記録の向上をめざし主体的に運動へ参加することができる。
	6	「陸上」	11	○投てき ◆投げる動きに親しみ、適切な力加減や方向を意識して投てきする力を養う。	(知) ルールを理解して走競技や投てき競技をすることができる。 (思) 自己の課題を見つけ、解決へ向けて工夫することができる。 (主)記録の向上をめざし主体的に運動へ参加することができる。
	7	「水泳」	8	○水中でのリラクゼーション、呼吸法、泳法の基礎 ◆水中でのリラクゼーションや呼吸法、泳法の基礎に親しみ、水に慣れながら心身の緊張を和らげ、安全に活動する力を養う。	(知) 水中で力を抜いて浮くことができる。 (思) 水中での力の抜き方や呼吸法について知ることができる。 (主)泳法を理解して泳ぐことができる。
二学期	9	「水泳」	8	○水中でのリラクゼーション、呼吸法、泳法の基礎 ◆水中でのリラクゼーションや呼吸法、泳法の基礎に親しみ、水に慣れながら心身の緊張を和らげ、安全に活動する力を養う。	(知) 水中で力を抜いて浮くことができる。 (思) 水中での力の抜き方や呼吸法について知ることができる。 (主)泳法を理解して泳ぐことができる。
	10前半	「武道」(柔道)	5	○受け身 ◆身体の使い方や姿勢に気を付けながら運動し、けがの予防につながる動きを身に付ける。	(知) 柔道の歴史や基本動作などについて知る。 (思) 受け身の動作をすることができる。 (主) 様々な種類の受け身を習得しようとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	「武道」(柔道)	6	○寝技 ◆寝技の基本動作に親しみ、相手との関わりの中で体の使い方を工夫し、安全に動く力を養う。	(知) 柔道の歴史や基本動作などについて知り、理解を深めることができる。 (思) 受け身の動作をすることができる。 (主) 複数の受け身を身に付けようとしている。
	11	「ダンス」	12	○リズム体操 ◆音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じ、リズム感や表現力を養う。	(知) 身体の各部位を意識して曲げたり伸ばしたりすることができる。 (思) リズムを感じながら身体を動かすことができる。 (主) 友達と一緒にダンスを踊ることができる。
	12	「ダンス」	11	○創作ダンス ◆自分のイメージや感情を動きで表現する楽しさを味わい、創造力や表現力を養う。	(知) 身体の各部位を意識して曲げたり伸ばしたりすることができる。 (思) リズムを感じながら身体を動かすことができる。 (主) 友達と一緒にダンスを踊ることができる。
三 学 期	1	「球技」(ハンドサッカー)	6	○ドリブル、パス ◆ドリブルやパスの基本技能に親しみ、ボール操作や仲間との連携を通して、運動の楽しさを味わうとともに協力する力を養う。	(知) ルールを理解して運動することができる。 (思) ドリブルやパスの特性を理解し、プレーをすることができる。 (主) 自己の課題を見つけて取り組むことができる。
	2	「球技」(ハンドサッカー)	12	○ミニゲーム ◆ゲームを通して、ドリブルやパスなどの技能を活用し、仲間と協力しながら状況に応じた判断や動きができる力を養う。	(知) 試合の中でドリブル、パス、シュートなどを行うことができる。 (思) 仲間や相手の動きを考えて試合をすることができる。 (主) 仲間と協力しながら試合を行うことができる。
	3	「球技」(ハンドサッカー)	9	○シュートコンテスト ◆シュートの技能を高め、的やゴールをねらって力加減や方向を工夫しながら正確にシュートする力を養う。	(知) 課題や時間を意識してシュートすることができる。 (思) 自分に合致した課題を選択することができる。 (主) 高度な課題へ挑戦することができる。
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手本を効果的に用いて、身体の動きのイメージをもちやすくする。</li> <li>・ 学習を繰り返し、見通しやイメージをもてるようにする。</li> <li>・ 学期や行事などで使用できる場所や用具を考慮する。</li> </ul>		

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	美術Ⅱ	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 (思)主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (学)主体的に創造的な諸活動に取り組み、美術文化に親しむ態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:後藤理沙				
使用教科書	美術2(光村図書)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	【ガイダンス】 色の特徴を知ろう	6	○色の性質、効果、配色について知ろう ○日常生活の中にある、色の効果を知ろう ◆伝えたいイメージに合う、配色を考える。	(知)色の特徴について、理解している。 (思)色の特徴が生かされている場面に気付いたり、色の効果を考えた配色ができる。 (主)進んで色についての知識を活用しようとしている。
	5	【絵画】 アクション・ペインティング	6	○アクション・ペインティングの作家や技法を調べよう ○テーマ、技法を決めて制作 ○鑑賞 ◆伝えたいテーマを考え、絵の具を垂らす、画面にぶつけるなどして絵を表す。	(知)アクション・ペインティングの表現について知る。 (思)意図に応じた色や表現方法を選んで表現している。 (主)アクション・ペインティングについて調べたことをまとめ、見方や感じ方を深めようとしている。
	6	【デザイン】 使う場面を考えて	14	○陶土を使った作品や技法を調べよう ○生活で使えるものを制作 ○鑑賞 ◆陶土を使った作品や技法を学び、生活で使えるものを制作する。	(知)陶土の特性や、陶土を使った作品の形や色の表現について知り、制作に生かす。 (思)使う場面に合う、形や色、模様を発想する。 (主)陶土を使った作品について調べ、自己の価値観をもって制作に生かそうとしている。
	7				
二学期	9	【映像メディア表現】 学校生活を表す風景を撮影する	8	○好きな学校の風景を撮影しよう ○学校の魅力を伝える動画を制作 ○鑑賞 ◆撮影の瞬間や、画面構成を意識して、学校で心に残る風景(学校の風景、授業の様子など)を撮る。	(知)デジタル機器を使った写真撮影・動画制作の方法を知り、工夫して表現する。 (思)学校生活で心に残る場面が伝わるように撮影する。 (主)学校の良さが伝わる動画になるよう、試行錯誤を重ね粘り強く制作している。
	10前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	【映像メディア表現】 アニメーションをつくる	10	○アニメーションの技法について学ぼう ○写真や絵を用いたアニメーションを制作 ○鑑賞 ◆アニメーションデジタル機器を活用し、写真や映像を用いた作品を制作する。	(知) デジタル機器を使った表現方法を知り、表現方法を工夫する。 (思) 主題に合った構想を練り、意図に応じた表現方法を工夫する。 (主) 自己の価値観をもって作品について話し合い、作品の見方や感じ方を深めたりする。
	12 前 半				
二 学 期	12 後 半	【デザイン】 問題解決のためのデザイン	13	○デザインについて知ろう ○問題解決するためのデザイン制作 ○鑑賞 ◆社会で起きているさまざまな問題に目を向け、形や色、材料を工夫して解決のためのデザインを考える。	(知) 造形的な視点について理解を深め、構成や色調の工夫ができる技能を身に付けている。 (思) 主題を生成し、自己の価値観を高めてデザインに対する見方や感じ方を深める。 (主) 既存のデザインについて調べ、よりよいデザインを考えようとする。
	1				
	2				
3					
そ の 他	通年	美術史		・美術史について学ぶ。作品制作に関係する、作家の作品についても紹介する。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				・扱いやすい材料や道具を用意する。	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	英語コミュニケーションⅢ	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	142 単位時間
年間指導目標	(知)「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を伸ばし、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 (思)世界の言葉、文化、民族を知り、全員が調和を保ち共生する方法や大切さを考える。 (学)英語を通じて積極的にコミュニケーションを図り、相手に伝えようとする態度を育成する。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:森本健治				
使用教科書	VISTA English CommunicationⅢ(三省堂)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	Lesson1「English as an International Language」	13	○世界で話されている英語について、理解して考えを深める。 ◆世界の英語についての対話を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)世界の英語について、内容を読み取る技能を身に付けている。 (思)英語についての考えを、正しく伝えたり答えたりする。 (主)世界の英語について、主体的に読み取ろうとしている。
	5	Lesson2「Digital Art」	15	○日々進歩するデジタル技術やデジタルアートについて学ぶ。 ◆デジタルアートについての発表を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)デジタルアートについて、現在完了形に注意しながら、読み取る技能を身に付けている。 (思)デジタルアートの概要や要点を捉えることができている。 (主)デジタル技術について、主体的に考えを伝えようとする。
	6	Lesson3「Sports Unite People for Peace」	16	○南スーダンでスポーツが平和な国づくりに果たしている役割について学ぶ。 ◆南スーダンにおけるスポーツの役割についての記事を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)南スーダンにおけるスポーツについて、内容を読み取る技術を身に付けている。 (思)南スーダンのスポーツの役割を読み取って捉えている。 (主)平和な国づくりについて、要点を話して伝えようとしている。
	7	Lesson4「Let's Have a Picnic!」	9	○ピクニックの歴史や健康促進効果について、理解して考えを深める。 ◆ピクニックの歴史や健康効果についての説明を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)動名詞、不定詞を使った文を読み取る技能を身に付けている。 (思)ピクニックの歴史や健康促進について要点を把握できる。 (主)海外の食文化について、主体的に情報を伝えようとする。
二学期	9	Lesson5「Dresden Elbe Valley」	14	○ドレスデン・エルベ峡谷(世界遺産)の価値と生活の関係について、理解して考えを深める。 ◆ドレスデン・エルベ渓谷についての説明を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)関係代名詞、関係副詞を用いた英文を理解できる。 (思)ドレスデン・エルベ峡谷について読み、要点を把握している。 (主)峡谷の情報を主体的に得ようとしている。
	10前半	Lesson6「Flowers from Life」	8	○「いのちの花プロジェクト」とその活動に込められた高校生たちの思いについて、理解して考えを深めることができる。◆「いのちの花プロジェクト」についての話を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)名詞を修飾する分詞に関する事柄を理解している。 (思)「いのちの花プロジェクト」の要点を把握している。 (主)動物の世話に関する課題とその解決策について、主体的に考えてそれを伝えようとする。

期	月	単元(題材)名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点)
一 学 期	10 後 半	Lesson6「Flowers from Life」	8	○「いのちの花プロジェクト」とその活動に込められた高校生たちの思いについて、理解して考えを深めることができる。 ◆「いのちの花プロジェクト」についての話を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 名詞を修飾する分詞に関する事柄を理解している。 (思) 「いのちの花プロジェクト」の要点を把握している。 (主) 動物の世話に関する課題とその解決策について、主体的に考えてそれを伝えようとする。
	11	Lesson7「Global Refugee Crisis」	14	○難民問題の実態と世界における対応について、理解して考えを深めることができる。 ◆難民問題のプレゼンテーションを読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 比較級・最上級に関する事柄を理解している。 (思) 難民問題のプレゼンテーションについて、その要点を読んで把握している。 (主) 難民問題について、主体的に考えを伝えようとしている、
	12	Lesson8「Dream Bigger, Go Further」	13	○宇宙飛行士、植松努さんから、これからの社会に必要な社会人としての能力について考える。 ◆植松努さんのスピーチを読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 植松努さんのスピーチの内容を読み取る技術を身に付けている。 (思) 植松努さんのスピーチの内容を把握できている。 (主) 社会人として必要な能力を、主体的に伝えようとする。
三 学 期	1	ENJOY READING 1「The Little Prince」	11	○王子様の様々な出会いを描く物語について読み、考えを深めることができる。 ◆物語を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) これまでの学習に留意しながら、内容を読み取る技術を身に付ける。 (思) 物語の理解を深めるために、内容の要点を把握する。 (主) 物語の内容を主体的に読み取ろうとする。
	2	ENJOY READING 2「After Twenty Years」	14	○「20年後」の物語を読み、感想を書いたり発表したりすることができる。 ◆物語を読み、概要や要点、必要な情報を、読み取ることができる。	(知) これまでの学習に留意しながら、内容を読み取る技術を身に付ける。 (思) 物語の理解を深めるために、内容の要点を把握する。 (主) 物語の内容を主体的に読み取ろうとする。
	3	ENJOY READING 2「After Twenty Years」	10	○「20年後」の物語を読み、感想を書いたり発表したりすることができる。 ◆物語を読み、概要や要点、必要な情報を、読み取ることができる。	(知) これまでの学習に留意しながら、内容を読み取る技術を身に付ける。 (思) 物語の理解を深めるために、内容の要点を把握する。 (主) 物語の内容を主体的に読み取ろうとする。
そ の 他	通年	ALTとの授業		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTと英語でコミュニケーションしたり、英語活動を行うことで、英語のリスニング、スピーキングの技術を高める。</li> <li>・外国の人と触れ合うことで、文化や思考などの異文化理解を進める。</li> </ul>	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスルームイングリッシュを用いて、英語で会話をすることに慣れる。</li> <li>・学習した英文法を用いて、自分の伝えたいことを英語で言ったり書いたりする練習を繰り返す。</li> <li>・ALTとの授業では、文法や語法的な間違いを気にせず、英語で伝える楽しさをもてるように支援する。</li> </ul>	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	家庭総合	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	72 単位時間
年間指導目標	(知)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (思)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (学)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:上野はつえ				
使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	ガイダンス 食生活と健康	8	○家庭総合の学習内容と目的、ホームプロジェクト ○栄養素の働き、食品の安全 ◆自分の生活を見直し、改善する力を身につける ◆五大栄養素と多く含む食品を知る、食品の表示方法を知る	(知)食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的視点から理解している。 (思)自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたり、発表したりすることができる。 (主)栄養素や食品の知識を生かして、自分や家族の食生活を改善しようとしている。
	5	食生活と健康 (実習含む)	8	○健康に配慮した食生活、献立作成と調理、持続可能な食生活 ◆自分や家族に必要な栄養素を知る	(知)食中毒や食物アレルギーについて理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。 (思)食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を活用し、自身や家族の献立を考え、作成することができる。(主)自身や家族のほか、さまざまな年齢・ライフスタイルの人に必要な栄養素、適した献立について興味を持って調べている。
	6	食生活と健康 (実習含む)	6	献立作成と調理、持続可能な食生活 ◆自分や家族のために献立を立てる力を身につける ◆調理実習を踏まえて、自立に向けて考える	(知)資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存ができる。 (思)自給率の低下や外食・中食への依存など現在の食をとりまく課題について深く考えている。 (主)食の安全・衛生について関心を持ち、現代の食生活における課題について目を向けている。
	7	衣生活と健康	3	○衣生活の役割、被服の機能、被服の選択、被服材料、洗濯と手入れ(洗濯、染み抜き、アイロンがけ実習含む) ◆健康や安全に配慮した衣生活を営むことができる	(知)被服の入手、洗濯、保管などの被服管理について理解し、管理できる技術を習得している。 (思)衣生活に関する学習を通して、自身の着装について考え、まとめたり、発表したりすることができる。(主)衣服の機能や安全性、環境への配慮などの知識を生かして、自分の衣生活を改善しようとしている。
二 学 期	9	ホームプロジェクト 衣服・布を用いた小物の製作	5	○ホームプロジェクト ◆自分の生活を見直し、改善する力を身につける ○被服製作の基本、被服製作実習 ◆衣服製作の手順や道具の使い方を理解し、製作する	(知)調査・研究に必要な資料を収集・整理して具体的な計画を立てることができる。 (思)生活上の課題の解決を目指して、科学的に探求し、表現することができる。 (主)家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、生活の課題を見い出して改善しようとしている。
	10 前半	衣服・布を用いた小物の製作	4	○被服製作の基本、被服製作実習 ◆衣服製作の手順や道具の使い方を理解し、製作する	(知)衣服づくりの手順を理解している。 衣服づくりに必要な用具について理解している。 (思)必要に応じた材料や手順を選ぶことができる。 (主)被服製作実習に意欲的に取り組もうとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	衣服・布を用いた小物の 製作	4	○被服製作の基本、被服製作実習 ◆衣服製作の手順や道具の使い方を理解し、製作する	(知)衣服製作の基礎的な技術を身につけている。 (思)被服製作において、素材、色、縫製などを工夫することにより着心地のよい被服を作成している。 (主)被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。
	11	共生社会と福祉	8	○共生社会、リスクに備える、社会保障制度、ノーマライゼーション、ボランティア活動 ◆人生のリスクマネジメント、ノーマライゼーションについて考える ◆自分にできるボランティア活動について考える	(知)社会保障制度や公的年金制度について理解している。 (思)共生社会の重要性を考え、その実現のための課題について具体的に考えるなど、資料を収集してまとめることができる。 (主)地域社会の一員として、個人や集団がどのようにつながり、支え合っていくか、考えようとしている。
	12	住生活と住環境	8	住まいの役割、住環境、住まいの安全 ◆住まいの役割について考える ◆地震などの災害の備えについて考える	(知)住宅の役割、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。 (思)ライフステージや動線を考えて平面図を作成し、まとめたり発表したりすることができる。 (主)将来の住まい方について考えようとしている。
三 学 期	1	住生活と住環境 持続可能なライフスタイル と環境	6	○住生活の計画、持続可能な住まい ○暮らしと環境問題、社会の取り組み、持続可能な消費 ◆未来の自分の暮らし方について多角的に考える	(知)住生活の設計に必要な情報を収集・整理し、計画をたてることができる。 (思)住居のバリアフリーやユニバーサルデザインについてまとめたり発表したりすることができる。 (主)住居の持続可能性について自分ごととして考えようとしている。
	2	持続可能なライフスタイル と環境	6	○暮らしと環境問題、社会の取り組み、持続可能な消費 ◆暮らしと環境とのかかわり、環境問題について考える	(知)環境に配慮した消費行動に必要な情報を収集・整理することができる。 (思)持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、新聞、書籍、インターネット、具体例を収集し、まとめたり、発表したりできる。 (主)具体的な事例を通して、環境負荷の少ない生活について考え、自らの生活意識やライフスタイルを見直そうとしている。
	3	生涯の生活設計	6	○自分の生き方を設計しよう ◆生活設計を立てられるようになる	(知)生活に必要な金銭や生活時間などの生活資源について理解している。 (思)自身のライフスキルがどの程度高まったかを考え、まとめたり、自分らしいライフスタイルの実現を目指して、生活設計をたてたり、発表したりできる。 (主)家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、生活の課題を見いだして改善しようとしている。
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス、学びの地図を呈示する。</li> <li>・生徒が考えた献立や調理方法を実践するなど、実体験に基づいて気付いたり考えたりできるようにする。</li> <li>・動画などの教材を用意し、実際の場面を想像できるよう配慮する。</li> <li>・個々の生徒が使いやすい道具などを把握し、必要に応じて準備する。</li> </ul>		

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学部	高等部	学年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	情報Ⅱ	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	71 単位時間
年間指導目標	(知)多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。				
	(思)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。				
	(学)情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:横枕雄一郎				
使用教科書	情報Ⅱ (美教出版)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	第1章 情報社会	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会の進展 ◆情報社会の変化について理解し、情報技術が進展することによる社会の変化に興味・関心をもつ。</li> <li>○知的活動の変化 ◆IoTとAIの技術について理解し、利用方法を考える。</li> <li>○X-Techによる社会の変化 ◆産業分野での情報技術の活用について理解する。</li> <li>○情報セキュリティ ◆情報セキュリティの必要性と3要素について理解し、情報が不正利用された場合の影響を考える。</li> <li>○クラウドサービスの利用 ◆クラウドサービスの発展や形態ごとの特徴を理解する。</li> <li>○法と制度の整備 ◆情報セキュリティに関する法整備について理解する。</li> <li>○メディアとさまざまなコンテンツ ◆メディアの種類とその特徴を知る。</li> <li>○コミュニケーションの多様化 ◆インターネットで提供されるサービスとコミュニケーションの特徴について理解する。</li> <li>○コンテンツの制作 ◆コンテンツ制作の流れを理解し、全体の見通しをもって作成できる。</li> </ul>	(知) 情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展について理解する。情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化について理解する。情報技術の発展による人の知的活動への影響について理解する。 (思) 情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察する。コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察する。人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察する。 (主) 情報技術が進展することによる社会の変化に興味・関心をもち、そのことにより生じる問題を解決しようとしている。コンテンツ演出の特徴を、コンテンツ作成に活かそうとしている。ソーシャルメディアの課題を解決して活用しようとしている。よりよいコンテンツになるように、適切に運用・改善しようとしている。
	5				
	6				
二学期	7	第2章 データサイエンス	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データサイエンスと社会 ◆データサイエンスの要素技術や実社会における応用について理解する。</li> <li>○データの収集 ◆量的データと質的データについてそれぞれ具体例を示しながら説明することができる。</li> <li>○データの整理と変換 ◆表形式のデータの表現や、文字列の名寄せの処理について理解する。</li> <li>○データの分析と可視化 ◆度数分布やヒストグラムについて理解し、表計算ソフトを用いてそれらの作成ができる。</li> <li>○統計的推測 ◆標本平均を求めることができ、標本平均によって母平均を推定できる。</li> <li>○機械学習の概要 ◆機械学習の概念について理解する。</li> <li>○回帰による分析 ◆単回帰・多項式回帰・重回帰のそれぞれについて理解する。</li> <li>○分類による分析 ◆ロジスティック回帰による分類について理解し、表計算ソフトを用いてロジスティック回帰の分析ができる。</li> <li>○クラスタリングによる分析 ◆階層化クラスタリングやK-means法について理解する。</li> <li>○評価と意思決定 ◆訓練データ・検証データ・テストデータの違いとそれぞれの用途を理解する。</li> </ul>	(知) 多様かつ大量のデータの存在やデータ活用の有用性、データサイエンスが社会に果たす役割について理解し、目的に応じた適切なデータの収集や整理、整形について理解し技能を身に付ける。データに基づく現象のモデル化やデータの処理を行い解釈・表現する方法について理解し技能を身に付ける。データ処理の結果を基にモデルを評価することの意義とその方法について理解し技能を身に付ける。 (思) 目的に応じて、適切なデータを収集し、整理し、整形する。将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行う。モデルやデータ処理の結果を評価し、モデル化や処理、解釈・表現の方法を改善する。 (主) 実社会の実問題に対するデータサイエンス技術の応用に興味・関心を示している。インターネットに公開されているデータに興味・関心を示そうとしている。機械学習の技術を応用した実サービスや製品に興味・関心をもちようとしている。
	9				
	10前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	第3章 プログラミング言語	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>○JavaScriptの基礎</li> <li>◆JavaScriptのプログラムの文法を理解し、簡単な構造のアルゴリズムを考えてプログラムを作成することができる。</li> <li>○Pythonの基礎</li> <li>◆Pythonの特徴やプログラムの文法を理解する。</li> <li>○Pythonのモジュール</li> <li>◆NumPyの配列のデータ構造および配列の作成・初期化について、また、基本的な操作・演算方法について理解する。</li> </ul>	<p>(知) JavaScriptのプログラムの文法を理解している。JavaScriptのプログラムの文法に従って、正しく記述できる。Pythonの特徴を理解している。Pythonをコードを編集し実行することができる。</p> <p>(思) 簡単な双方向性のあるコンテンツを考えている。リストやタプル、文字列、辞書を用途に応じて適切に使い分けすることができる。</p> <p>(主) プログラムを修正して、簡単なコンテンツを作成しようとしている。必要に応じてプロパティも活用しながら、問題解決に適したクラスを定義することができる。</p>
	11				
	12				
三 学 期	1	第4章 情報システム	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会の中の情報システム</li> <li>◆さまざまな情報システムの仕組みを理解する。</li> <li>○情報システムの分類</li> <li>◆集中処理システムや分散処理システムについて理解する。</li> <li>○情報システムの開発</li> <li>◆情報システムを開発する際の順序を理解し、プロセスに興味・関心を示し、意欲的に取り組む。</li> <li>○設計手法</li> <li>◆UMLは構造図と振る舞い図に分類できることを知り、クラス図や状態遷移図、シーケンス図の書き方について理解する。</li> <li>○Webシステムの仕組み</li> <li>◆Webシステムの仕組みについて知り、静的なWebページと動的なWebページの違いについて説明することができる。</li> <li>○データの送受信の方法</li> <li>◆form要素や、input要素、textarea要素の属性と属性値を理解する。</li> <li>○Web API</li> <li>◆Pythonの辞書とJSON形式の文字列の違いを理解する。</li> <li>○ファイル操作</li> <li>◆ファイルを操作するためには、ファイルオブジェクトを生成する必要があることを理解する。</li> <li>○データベースの操作</li> <li>◆表、行、列、選択、射影、結合、主キー、外部キーなどの項目について理解し、与えられた操作に対して、どのようなSQLを使用したらよいかを判断する。</li> <li>○計測・制御システム</li> <li>◆デジタル入出力やアナログ入出力のための組み込み関数を理解し、それぞれの違いを説明することができる。</li> </ul>	<p>(知) 情報システムにおける、情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術について理解する。情報システムの設計を表記する方法、設計、実装、テスト、運用等のソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解する。情報システムを構成するプログラムを制作する方法について理解し技能を身に付ける。</p> <p>(思) 情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察する。情報システムをいくつかの機能単位に分割して制作し統合するなど、開発の効率や運用の利便性などに配慮して設計する。情報システムを構成するプログラムを制作し、その過程を評価し改善する。</p> <p>(主) さまざまな情報システムの役割を考え、社会生活を便利にしようとしている。社会の中で稼働している情報システムに興味・関心を示そうとしている。公開されているデータをWeb APIを使って取得することに興味・関心を示し、意欲的に取り組んでいる。ファイル操作について興味・関心を示そうとしている。</p>
	2				
	3				
<b>指導の工夫 学習時の配慮事項等</b>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の実態に応じて、教材等の提示位置を工夫する。</li> <li>・ICT機器を操作しやすいよう、机、書見台等を一人一人に合わせて調整する。</li> </ul>	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	産業社会と人間	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	36 単位時間
年間指導目標	(知)社会生活に必要な力についての知識や技能を身に付ける。				
	(思)心身ともに豊かな社会生活を送るために考えを広げることができる。				
	(学)自己を認識し、自ら将来の自分や社会について考える態度を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:清宮衛介				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標（評価の観点） (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	オリエンテーション 自己理解 自分の将来の生き方や進路	2	○キャリアガイダンス ◆社会人としての基本的な心構えや学校生活での目標設定について理解する。 ○自分の生活を見直そう ◆自分の生活習慣や時間の使い方を振り返り、改善点を見つける。 ○ライフプラン(卒業後の自分)設計 ◆将来の生活や進路について具体的な目標を立て、計画を作成する。	(知)就業体験の目的や学習内容の理解を深め、勤労観や職業観を養う。 (思)進路実現や社会参加に向けて、キャリアプランニング能力を高めることができる。 (主)自分の課題や目標について具体的に考え、自己理解を深めようとする態度を養う。
	5	自己理解 自分の将来の生き方や進路	4		
	6	自己理解 自分の将来の生き方や進路	4		
	7	自己理解 自分の将来の生き方や進路	2		
二学期	9	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4	○就労体験ガイダンス ◆就業体験の意義と目的を理解し、準備を進める。 ○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆社会生活に必要な身だしなみやマナーを身に付ける。 ○社会との関わりについて ◆地域社会や職場での人間関係の築き方を学ぶ。	(知)就業体験の意義を理解し、社会生活に必要なマナーや身だしなみの知識を身に付ける。 (思)職場や地域社会での人間関係の築き方を考え、適切なコミュニケーション方法を判断できる。 (主)就業体験に向けて準備を進め、社会参加への意欲を高めようとする態度を養う。
	10前半	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	2		

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3	○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆社会人として求められる身だしなみや礼儀作法を実践する。 ○社会との関わりについて ◆社会参加に向けて、地域との関わり方を考える。	(知) 就業体験の意義を理解し、社会生活に必要なマナーや身だしなみの知識を身に付ける。 (思) 職場や地域社会での人間関係の築き方を考え、適切なコミュニケーション方法を判断できる。 (主) 就業体験に向けて準備を進め、社会参加への意欲を高めようとする態度を養う。
	11	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4		
	12	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3		
三 学 期	1	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3	○進路講話会 ◆先輩や社会人の話を聞き、進路選択の参考にする。 ○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆卒業後の生活を見据え、マナーを定着させる。 ○社会との関わりについて ◆社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動を考える。 ○1年間を振り返って ◆1年間の学習を振り返り、成長を確認し、今後の課題を明確にする。	(知) 進路選択に必要な情報を収集し、卒業後の生活に必要な知識や技能を身に付ける。 (思) 1年間の学習を振り返り、自己の成長と課題を分析し、今後の進路実現に向けた計画を立てることができる。 (主) 社会の一員としての自覚を持ち、主体的に社会参加しようとする態度を養う。
	2	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4		
	3	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて 次年度に向けて	2		
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめたり、振り返ったりしやすいように、ワークシートを準備する。</li> <li>・自分のことを客観的に理解できるように、グループ内でも評価をし合う。</li> <li>・ロールプレイ等を行い、体験的に学習できるようにする。</li> <li>・自分の学んだことを発表する機会を設ける。</li> </ul>	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	総合的な探究の時間	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	39 単位時間
年間指導目標	(知)各教科等で身に付けた知識や技能を活用したり実践したりすることができる。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝えることができる。 (学)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方について考えを深める。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:細貝正輝、上野はつえ				
使用教科書	なし				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	1学期オリエンテーション 話し合い活動	3	○学習及び行事予定の確認 ◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	(知)各教科等で身に付けた知識や技能の活用を図る。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝える力を高める。 (主)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方を考えようとする。
	5	話し合い活動 校外学習事前学習	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○学部行事の企画、運営を行う。 ○校外学習での行程を調べ、適切に計画する。	
	6	話し合い活動 校外学習事後学習	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○校外学習での行程を調べ、適切に計画し、振り返りをする。	
	7	話し合い活動 1学期のまとめ	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○学部行事の企画、運営を行う。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
二学期	9	2学期オリエンテーション 話し合い活動	4	○学習及び行事予定の確認 ◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	10 前半	話し合い活動	2	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	話し合い活動	2	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	(知)各教科等で身に付けた知識や技能の活用を図る。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝える力を高める。 (主)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方を考えようとする。
	11	話し合い活動	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	12	話し合い活動 2学期のまとめ	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
三 学 期	1	話し合い活動	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	2	話し合い活動	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	3	話し合い活動 1年間のまとめ	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用しながら、学びの過程を自ら決定し、思考のスキルを身に付けられるようにする。</li> <li>・活動内容や役割分担を明確にする。</li> <li>・自分の意見や考えを整理して、集団の中で伝えられるよう、発表の機会を多く設ける。</li> </ul>	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	
教科等名	特別活動	グループ名		年間授業時数	39 単位時間
年間指導目標	(知)様々な集団行動を行う上で必要となることについて理解する。 (思)様々な場面で自分と異なる考えにある多様な他者を尊重して認め合い支え合う。 (学)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けことを生かして自己実現を図ろうとする態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:森本健治、松島理恵、上野はつえ、長岡優花、野畑慶匡 学校介護職員:大森美恵				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点） (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	高3年のスタート	3	○3年生の集団紹介、1年間の行事紹介、係り活動決め等 ◆今年度の活動や友達・教職員を知り、新たに始まる学校生活を意識する。	(知)今年度の活動や友達・教職員を知り、新たに始まる学校生活を意識する。 (思)自分のやりたい係を考えて、選ぶ。 (主)新しい教員と関わりながら係を決める。
	5	卒業制作	4	○卒業制作 ◆卒業制作のタンブラーのデザインを考える。	(知)見本を見ながら自分の好きなデザインを考える。 (思)デザインの見本の中から自分の好きな物を選ぶ。 (主)教員と相談しながら、自分からデザインを決めていく。
	6	レクリエーション活動	4	○学年のフェスティバルを行う。 ◆学年のフェスティバルに向けて友達と協力してゲーム等考える。	(知)イベントの内容について理解する。 (思)イベントで行うゲーム等を友達と協力して考える。 (主)友達同士で協力して関わりをさらに深める。
	7	レクリエーション活動	3	○学部交流会に向けて準備する。 ◆学部交流会で行うレクリエーションの準備を友達と協力して行う。	(知)行事の内容について理解する。 (思)行事で行うゲーム等を友達と協力して考える。 (主)友達同士で協力して関わりをさらに深める。
二学期	9	虹輝祭にむけて	4	○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆虹輝祭の発表の内容について友達と協力して考え、準備する。	(知)舞台発表の内容について意識する。 (思)友達と協力して発表について考え、自分の役割を理解する。 (主)舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。
	10前半	虹輝祭にむけて	2	○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆虹輝祭の発表の内容について友達と協力して考え、準備する。	(知)舞台発表の内容について意識する。 (思)友達と協力して発表について考え、自分の役割を理解する。 (主)舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	虹輝祭にむけて	2	○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆虹輝祭の発表の内容について友達と協力して考え、準備する。	(知)舞台発表の内容について意識する。 (思)友達と協力して発表について考え、自分の役割を理解する。 (主)舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。
	11	虹輝祭にむけて	4	○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆虹輝祭の発表の内容について友達と協力して考え、準備する。	(知)舞台発表の内容について意識する。 (思)友達と協力して発表について考え、自分の役割を理解する。 (主)舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。
	12	学期のまとめ	4	○2学期の学習活動、また個人の成長を振り返る。 ◆虹輝祭の発表について振り返り、学期のまとめを行う。	(知)舞台発表の内容について振り返る。 (思)それぞれがんばったことを発表し、友達の考えを共有する。 (主)それぞれがんばったことを発表し、活動を振り返る。
二 学 期	1	レクリエーション活動	3	○レクリエーション活動を行う。 ◆友達と協力して活動を行う。	(知)活動の内容やチームでの役割を理解する。 (思)役割や作戦を話し合い、チームで協力する。 (主)友達と協力しながら活動する。
	2	卒業に向けて	3	○卒業式練習 ◆卒業式の練習を通して、卒業に向けて意識をもって取り組む。	(知)学校生活を振り返ることで卒業後の生活に繋げる。 (思)卒業生の言葉の内容を考え、練習する。 (主)卒業式の練習に友達と協力して取り組む。
	3	卒業に向けて	3	○卒業式練習 ◆卒業式の練習を通して、卒業に向けて意識をもって取り組む。	(知)学校生活を振り返ることで卒業後の生活に繋げる。 (思)卒業生の言葉の内容を考え、練習する。 (主)卒業式の練習に友達と協力して取り組む。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の友達との関わりを通し、豊かな人間関係を築けるような活動を設定する。</li> <li>・行事に合わせた活動を設定する。</li> <li>・活動内容を生徒が決める等、個々の自主性を引き出せるようにする。</li> </ul>	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	自立活動	グループ名	C学習グループ・進学重点類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)自分の身体の状態を理解し、必要な知識を身に付ける。 (思)自分に必要な手立てを相談し、考え実行することができる。 (学)自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服ができる。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員: 富沢聖子、上野はつえ、熊谷賢二、福永映子、藤原千嘉				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点） (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	30	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	(知) 自分の身体の状態に合った取り組み等を理解し、実践することができる。 (思) 自分の障害の状態における、必要な支援や配慮を理解し、発信することができる。 (主) 自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとしている。
	5				
	6				
	7				
二学期	9	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	13	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。	
	10前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
二期	10 後半	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	13	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	(知) 自分の身体の状態に合った取り組み等を理解し、実践することができる。 (思) 自分の障害の状態における、必要な支援や配慮を理解し、発信することができる。 (主) 自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとしている。
	11				
	12				
三期	1	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	14	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	
	2				
	3				
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医（整形外科）、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。</li> <li>・鏡を活用し、姿勢を確認できるようにする。</li> <li>・生徒の興味関心や身近な学校生活における話し合いのテーマ設定をする。</li> </ul>		